

2019年度 3教科A方式 英語

A方式は従来と同じく大問3題が出題されました。前年に続き、2題は論説文で、1題は会話文です。文章の長さや設問の数・種類・難易度は例年とほぼ同じです。ある程度の長さの文章を読み、筆者の主張を理解し、それを自分のことばで説明できる力が要求されます。受験生の皆さんは、日ごろから読解力、作文力、語彙力、文法力などをバランスよく身につけておきましょう。

I.

【解答】

問1. (1) ③ (2) ② (3) ④ (4) ① (5) ③

問2. [A] ④ [B] ③ [C] ①

問3. (1) ③ (2) ④ (3) ② (4) ④ (5) ③

問4. 親子の会話の量は、必ずしも親の収入や学歴と比例するわけではない。(32文字)

問5. conversational turns

【講評】

子どもの言語能力が、家庭における会話・やりとりによって影響を受けることを論じた文章です。問1から問3までは、空所補充や語句の意味を問うもので、基本的な文法語彙力が問われています。問2の適語を選ぶ問題は前後の文章の論理的繋がりを理解することが問われますが、Aの in turn (=because of that) の正答率がとても低かったことは残念でした。問4と問5は記述式で、いずれも文章中に容易に答を見つけることができる問題でしたが、問4は diversity の意味とその中身の理解に差が見られました。正確な読解力が問われます。問5は比較的よくできていました。

II.

【解答】

問1. ア ① イ ③ ウ ① エ ④

問2. (a) ① (b) ④ (c) ③ (d) ③ (e) ① (f) ②

問3. (1) ② (2) ② (3) ① (4) ② (5) ② (6) ② (7) ① (8) ②

問4. ①

【講評】

例年通り、大問の一つとしてこのような会話文を出題しています。女子大と共学校での経験の違いについて議論しています。語句の意味を問う問2の(c)(d)(f)は正答率が低かったですが、内容を問う問3の(2)～(8)はよくできていました。比較的平易な英語でしたので、本文全体の趣旨はかなりわかりやすかったようです。

III.

【解答】

問1. (A) satisfy (B) description (C) assistance (D) inspiration (E) triumphant
(F) identify

問2. 1. ④ 2. ① 3. ④ 4. ②

問3. パラリンピックのボランティアたちは、(パラリンピックでの)経験が、単に選手が最高のプレーができるように(支援)する以上のことを含むことがわかるようになった。

問4. ①

問5. 下記の講評参照

【講評】

パラリンピックのボランティア経験がもたらす相互理解や共感、連帯感について述べた文章です。問1は派生語の問題で、毎年出題されており、まずまずの出来でした。普段から単語を関連語とともに学んで語彙を増やすようにしましょう。問2は本文の内容と一致する文を完成させる頻出の問題で、比較的よくできていました。問3の和訳は理解の度合いに差が見られた問題でした。involveの意味とmake it possibleのitが次のfor the athletes to perform their bestを指すことがわかるかがポイントです。不定詞の意味上の主語がforで表されることや、形式目的語のitの内容がどこに示されているかなど基本的な構文をしっかりマスターしておくことも大切です。問5は毎年出題されている自由英作文で、比較的書きやすいテーマだったと思います。例年通り分量は書けているようでしたが、段落としてまとまりのある構成になっていた答案は多くありませんでした。日ごろから自分の考えを英語でしっかりまとめる練習をしておきましょう。